

八幡平市立松野小学校 研究の概要

研究の全体構想

学校教育目標

進んで学び、心をみがき、何ごとにもくじけない、健康な子どもの育成

研究主題

読みを深め、自分の考えを形成する国語科指導の在り方について
～理解したことを既存の知識や体験と結び付ける指導の工夫を通して～

研究の目的

国語科において言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し表現する資質・能力を育成する。

研究の内容

一年次研究

考えの形成を目指した単元構成

- ・ 目指す児童の姿を明確にするプランシートによる単元構成
- ・ 視覚的な言語活動（単元のゴール）の提示による学習目的の理解

考えを広めたり深めたりする場の設定

- ・ 交流の工夫
- ・ ぶり返りの工夫

二年次研究 「考えの形成」を促す教師の授業構想

研究1 考えを引き出す

研究2 考えを整理する

研究3 考えをまとめる

児童の実態

明るく素直で、与えられた課題に対して真剣に取り組む真面目な様子がある。しかし、自己表現力が弱く、授業は受け身的になることが多い。国語と算数の2教科で比較すると、国語の方が低い。さらに国語5領域中、4つの学年で「読む能力」が低いことも課題である。

研究1 考えを引き出す

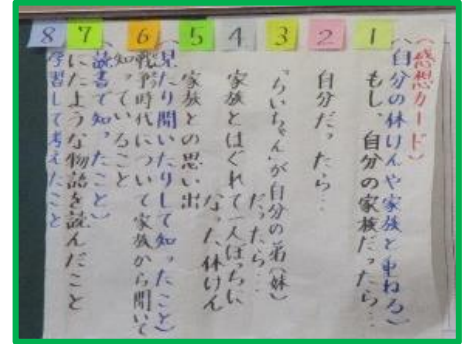
学習内容に関連した既有的知識や様々な体験を引き出す段階。
子どもが考えを引き出すポイントを3つに絞った。

1. 想起させる具体的な言葉

- ① 具体的な生活経験を引き出す観点から引き出す。
- ② 精査・解釈で理解したことから引き出す。
- ③ 図鑑や写真を見ながら、関連して自分の考えを引き出す。

3年「ちいちゃんのかげおくり」①

既有的知識を引き出す観点を、教師が提示している場面。
子供たちの日常生活と教材が結びつくような観点を示し、考えを引き出した。視覚的に分類しやすくするために書き出す付箋の色を分けている。
低学年では、図鑑や絵などの視覚的に理解しやすいもの、具体物を媒介にして、子供の体験や既有的知識を引き出していく。

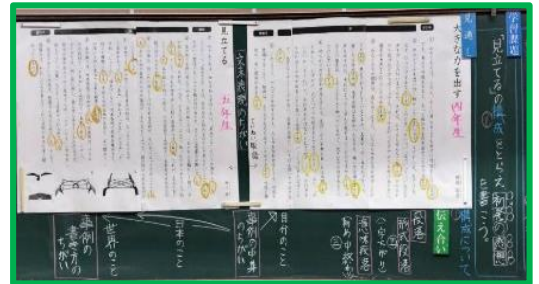


2. 構造と内容の把握、精査・解釈の学習内容

- ① 前年度教材（既習事項）との比較から引き出す。
- ② 自分の初発の感想との比較から、引き出す。
- ③ 授業のふり返り感想の交流から、引き出す。

5年「見立てる」①

前年度学習した説明文を並べて掲示し、段落構成や論の進め方を比較しながら、既有的知識を引き出している場面。
出来るだけ、子供の初発の感想や精査・解釈の授業での発言など、子供の声を生かして作られた観点を提示するようにした。
特に授業の振り返り感想は、子供たちの様々な考えが多岐にわたり記述されているものが多く、有効活用できる。



3. 書く活動、対話を通して

- ① ペアで対話しながら、新たな考えを引き出す。
- ② 観点で色分けした付箋に、書きながら考えを引き出す。

1年「うみのいきもの」①

図鑑を見ながら、お気に入りの生き物を紹介している場面。
具体物を目の前に説明することでお互いの対話が重なり合い、それぞれの体験や既有的知識が引き出されていた。
また、観点ごとに色分けした付箋を一人で書きだすことで、じっくりと自分に向き合い、既有的知識を引き出している子供が多く見られた。



研究2 考えを整理する

研究1で引き出された様々な自分の考えを、分類しながら整理する段階。整理する活動を3つに絞った。

1. 一人で視覚的に操作

- ① 観点ごとに書いた付箋を操作しながら、整理する。
- ② 学習記録を見直して整理する。（教材文、授業感想、授業ノート、板書記録）

6年「時計の時間と心の時間」①

自分の考えを観点毎に分類整理している場面。

筆者の主張にかかわる自分の意見と、筆者の論の進め方にかかわる意見、そして引き出された自分の既存の知識などを色分けした付箋に書き出し、付箋を書き足したり、貼り直したりしながら自分の考えを整理させた。一人で教材や学習記録など、様々な既習内容をじっくりと見比べながら整理することができた。



2. ペアやグループの対話

自分の考えをペア、グループで交流し、対話しながら整理する。

4年「一つの花」

観点で引き出した自分の考えを、ペアで話しながら、整理している場面。この後もペアを変えながら多くの友達と自由に意見交流を行させた。

共感する意見や互いに疑問を出し合いながら対話によって整理している様子が見られた。

特にも考えがまとまらない「考えの形成の初期段階」での対話が、対話を通して、自分の中で確かなものになっている様子が見られた。



3. 全体交流

- ① 同じ意見や異なる考えを、自分の考えと比較検討しながら整理する。
- ② 全体交流の意見を、教師によって分類された板書をもとに整理する。

3年「こまで楽しむ」①

一番友達に紹介したいこまを、観点毎に理由とともに張り出した場面。

様々な観点から出された考えが一覧表に整理されたものを見て、感化されたり、比べたりしながら、自分の考えを整理させた。

この後、全体交流により、自分では気づかなかった考えにふれることで、自分の考えを整理していく様子が見られた。



研究3 考えをまとめる

引き出し、整理した考えをまとめる段階。
考えをまとめるポイントを3つに絞った。

1. 自分の考えを絞る

整理した考えを絞ることで、自分の考えをまとめる。

4年「ウナギのなぞを追って」

筆者の主張に対して、引き出され、観点毎に分類・整理された自分の考えを見比べて、考えをまとめた場面。

自分の考えを絞る観点は「自分にも体験がある、教材の叙述に複数の根拠がある、既習の内容と比較した結果から自分が一番納得した内容、関連図書で同じことを感じた」などを見比べて、まとめていく。

高学年は、論の進め方等の学習内容を生かしたまとめ方ができるように書き進める。



2. 発達段階に応じたまとめ

- ① 低学年は、自分の体験と結び付けて、書いたり話したりしてまとめる。
- ② 中学年は、理解内容に自分の体験を結び付け、理由を示してまとめる。
- ③ 高学年は、理解内容に既存の知識を結び付け、複数の根拠でまとめる。

1年「うみのいきもの」①

お気に入りの生き物の「隠れ方」をペアで紹介している場面。

「どこに隠れたの？どうやって隠れたの？」など、ペアでの対話によって考えが引き出され、動作化しながら相手に教える姿が見られた。

低学年は、上手く言語化できない自分の考えも、動作化などの身体表現によって表現し、交流させた。

中学年以降は、対話を経て、書きまとめることで自分の考えをまとめる。



3. まとめ方のモデルを活用

- ① 単元導入時に示した考えのゴール（モデル）を参考にまとめる。
- ② 書き出しの指定など、書き方例を参考にまとめる。

6年「海の命」②

太一の生き方について自分の考えをまとめている場面。

単元導入時に教師より示された「考えの形成モデル」を教師のアドバイスのによって再確認し、書き方を参考にしながらまとめさせた。

また、参考例として示された「書き出し・文末の文例や、段落構成」を参考にまとめる。

途中、グループでの相談、友達からのアドバイス等も自由に取り入れながら自分の考えをまとめていく。



4. 研究の検証（学習感想から変容を検証）

1年説明的な文章「うみのいきもの」 ペア交流している授業場面の記録

単元ゴールを「友達に紹介する」とし、紹介し感想を話すことを考えの形成とした。図鑑を見せたり、動作化したりしながら家族との体験やテレビで見た体験も引き出された。

お気に入りの生き物を選ぶ。11名 選んだ生き物の隠れ方の説明。11名

①C1「この魚を見たことあるの？（図鑑を指さしながら）」C2「うん、お父さんと海に行った時に見た。」C1「へー、そうなんだ。」C2「こうやって、消えた。」C1「お魚が、いなくなったの？」C2「何か、下の砂の方にこうやって見えなくなった（床で動作化）」C1「こう？（隣で動作化）」C2「そう、教科書のハマグリと同じだった。お父さんと探したけど、いなくなってた。」

②C3「これ、身体の色が変わるんだよ。」C4「あー、それ知ってる、テレビで見たことある。ちょっと待ってね。」別な図鑑を探しに行く。「これこれ、勉強した蛸と同じやつだよ。これも身体の色が変わるんだよ。テレビで見たもん。」C3「へー、色が変わる隠れ方だね。何色になるの？」C4「えーっとね、似てる色見たことあるんだよなあ・・・（図鑑をめくり出す）」
・・・図鑑を使ってペアで紹介し合う活動・・・

4年文学的な文章「一つの花」 全体交流をしている授業の記録

「一つの花を読んで、私が受け取ったことは〇〇」という、精査・解釈で理解したことを生かして、自分なりに考えた言葉を丸の中に入れることを考えの形成とした。全体交流と教師の問い返しにより、複数の叙述から根拠を引き出した。

全体交流で考えを広げ深めた。9名 叙述から根拠を見つけて書く。12名

C「〇〇に入る言葉は心の花だと思います。ゆみこにお父さんの1つだけの心を渡したんだと思います。」T「なぜ一つなの？一輪じゃなくて一つなの？」C「お父さんが言った『一つだけあげよう』が、一つの花に関係していると思う。」C「ゆみこの言葉を〇に入れたから。一つだけちょうどいい一つを入れた。」T「花って書いてあるのに一つにしたの？」C「70ページの『一つだけの喜び』の、喜びが入った花だから。それが一つだから。」C「題名に一つの花と書いたのは、最後に渡した一輪のコスモスが、お父さんの心だから、お父さんのたった1個だけの心を花に入れてあげたから、やっぱり〇〇に入るのは、『心の花』だと思う。」

6年説明的な文章「時計の時間と心の時間」

学習前後の感想比較（9人）

筆者の主張に対する納得度を考えの形成とした。一読では納得できなかったが、構造と内容の把握、精査・解釈、学習感想の交流により、筆者の主張・表現の工夫への理解が深まり納得度が変化してきた。

自分の体験を記述

6名⇒8名

筆者の主張に納得

0名⇒7名

これからの生活で私は、悪気のないペー
 がゆ、くりなんにはむりわり自分のペー
 おしつけるのではなく、ある程度おさしく
 言めずに生活していくべきだと思ひました。
 また、ペーがはわい人にもなるとか、自分
 ったいていくべきだとも思ひました。自分
 のペーはあそびざるわけでもないし早すぎ
 るわけでもないの、むりわりこのペーと
 ちがうペーで働かなくとも、自分のペーと
 てめいよくもかけなけり、自分のペーも大
 切にしたらいと思ひました。

納得度は九十八%です。
 なせなら、六段落目の、人によって感覚が
 異なるには、すごく共感したからです。
 友達にホームセして、帰る時に、トイレに行
 くと言れませんでした。でも、帰る時に、五
 分くらいしたら出てきました。おそくね？
 というと、「え？ん？うたけ」と言われま
 した。
 どちらか早くても、早くかおそいのかわりし
 まい、おそくは、時計を見ながら、たのび
 ぬくおかつうでした。という体験です。

5. 成果と課題

- ◎ **考えを形成する過程を三段階に分けることで、考えを広げ深めることができた。**
 - ・ 単元内の「構造と内容の把握」, 「精査・解釈」の学習を経て理解したことと、自分の既存の知識や体験とを結び付け、考えを形成する過程を、「引き出し」「整理し」「まとめる」を明確にできた。
- ◎ **子どもから引き出す考えを教師がイメージしておくことが大事だと再確認できた。**
 - ・ 活動だけ、考えの形成だけに偏った授業構想ではなく、学習内容毎に育成する指導事項、資質能力を明確にし、それらを指導する。子どもから導き出したい考えをはっきりさせて、授業を構想することが考えの形成に繋がった。
- ◎ **他教科の発言が、具体的な事例に結び付ける内容が増えた。**
 - ・ 国語に限らず、他教科でも、自分の日常生活や既習事項とつなげながら思考し、発言する子が増えてきた。

- **授業の中で考えを引き出す観点を子供と作る方法の検討。**
 - ・ 子どもの考えを引き出す観点を教師が与えることから、授業の中に出てきた子どもたちの言葉や見方考え方から、考えを引き出す観点を作り出す方法。初発の感想や精査・解釈、授業感想で書かれた内容から、観点を作り出す。
- **考えをまとめる方法の系統的整理。**
 - ・ まとめることを発達段階毎にどのように構想するか、さらに整理する。音声言語だけでの交流を、教師一人では評価できない。
- **学びの系統性を意識する必要性。**
 - ・ 積極的に前学年の既習教材・事項を授業に活用し、系統的な指導を意識する。
- **多様な視点から考えを形成するための学習環境整備。**
 - ・ 他教科との関連・社会情勢・日常生活と授業を結び付ける等、学ぶ環境整備を意図的に整えておく。

